

平成 26 年度 事業報告書

日本河川・流域再生ネットワーク

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目指して活動しております。また、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、中国や韓国など ARRN 会員や海外関係機関との連携を通じ、日本の優れた知見を海外に向けて発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担っております。

平成 26 年度は、河川再生に関わる情報共有基盤の整備、河川再生の普及・啓発に向けた行事開催、水辺の小さな自然再生に関わる調査研究、国内外関係団体の活動支援や協働活動などに取り組みました。

また、会員に関しては、団体会員・55 団体、個人会員・683 人となりました。

1. 平成 26 年度実施事業

【1】 河川再生に関わる情報共有基盤整備

国内外の河川再生に関連する報道ニュース、行事情報、活動事例、一般書や専門書案内、行政ニュース等について、ホームページや facebook、ニュースメール（毎週配信・全 49 回）、ニュースレター（毎月発行・全 12 回）等を通じて広く社会一般に発信し、情報循環に努めました。また、JRRN 会員や海外連携機関（ARRN 会員組織、英国河川再生センター、欧州河川再生センター等）からの河川再生に関わる各種提供情報の共有を図りました。

加えて、ARRN 活動の一環として、ARRN ホームページの運営・管理を担い、ARRN 活動成果やアジアにおける河川再生関連情報の普及に努めました。

【2】 河川再生の普及・啓発に向けた行事等の実施

河川再生の普及・啓発、情報交換や交流を目的に、以下の企画や行事を主催しました。

(1) 「桜のある水辺風景 2014」写真公募と写真集制作・普及

水辺の美しさや人々との関わりについて考えるきっかけづくりを目的として、平成

26年に撮影された「桜のある水辺写真」を一般より募集し、24名・55点の作品を応募頂きました。応募作品は写真集としてとりまとめホームページで公表しました。

また、JRRN 会員アンケートにより応募作品から優秀賞及び佳作を選考しました。

(2) 『小さな自然再生』事例集制作座談会」開催 《河川整備基金助成事業》

小さな自然再生に関わる関係省庁の施策との共通項、身近な水辺での自然再生活動への市民参加の更なる推進に向けた方策等を見出すことを目的とした座談会『小さな自然再生』事例集制作座談会～小さな自然再生が中小河川を救う！更なる推進に向けた方策を探る～」を開催しました。また、座談会の様子は「できることからはじめよう水辺の小さな自然再生事例集」に掲載しました。

【3】河川再生に関わる調査研究

(1) 小さな自然再生に関わる事例調査と事例集制作・普及 《河川整備基金助成事業》

身近な川での自然再生への市民参加を促し、市民と河川管理者の連携を推進することを目的に、小さな自然再生の実践を通じその技術普及に尽力する専門家、専門知識の社会への橋渡しの有識者、また有志の若手研究者や実務者で構成される「小さな自然再生事例集編集委員会」を設立し、全国の中小河川で取り組まれている小さな自然再生の事例を調査し、その考え方や実施に際しての留意点等を取りまとめました。

また、本研究成果を「できることからはじめよう 水辺の小さな自然再生事例集」として全国に普及しました。

(2) 日本が培った河川再生に関わる知見の海外普及に関わる調査研究

日本が培った河川再生に関わる技術や経験の海外普及を目的に、これまでのネットワーク活動成果や会員の協力を得ながら、これら知見の見える化を図るための方策を研究し、第6回欧州河川再生会議（European River Restoration Conference 2014）やオランダ北ホラント州・水イノベーション会議（WaterinnovatioNH）等の参加・発表等を通じて、日本の知見を諸外国に普及しました。

【4】河川再生に関する冊子等の発行

河川再生の普及・啓発を目的に実施した行事等の成果、及び調査研究の成果を以下の冊子として取りまとめ、普及に努めました。

発行月	冊子名	備考
平成 26 年 7 月	桜のある水辺風景 2014 写真集	PDF 版のみ (ホームページ公開)

平成 26 年 12 月	欧州河川再生会議 2014 参加報告 (2014 年 10 月: オーストリア共和国ウィーン)	PDF 版のみ (ホームページ公開)
平成 27 年 3 月	できることからはじめよう 水辺の小さな自然再生事例集	河川整備基金助成事業 印刷製本版・PDF 版

【5】河川再生の推進に向けた国内外団体の支援や協働

JRRN 会員、ARRN 会員を含む河川に関わる国内外の諸団体が取り組む下記の公益活動に対し、企画や行事開催、広報等の支援や協働活動を行いました。

<国内活動>

年月	団体名等	支援・協働内容
通年	JRRN 団体会員	行事案内や刊行物の広報等
通年	筑波大学白川(直)研究室	河川市民団体研究等の協働
通年	水の巡回展ネットワーク(jawanet)	企画運営協力
平成 26 年 9 - 12 月	堀川再生の会・五平太	「遠賀堀川の未来を考える『輪い 和い話し夢会議』」企画広報協力
平成 26 年 7 - 12 月	東彼杵清流会、長崎県東彼杵町	「彼杵おもしろ河川団」企画 広報協力

<海外活動>

年月	団体名等	支援・協働内容
平成 26 年 10 月	アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)	「第 9 回 ARRN 運営会議」企画 運営協力(オーストリア)
平成 26 年 10 月	アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN) 欧州河川再生センター(ECRR)	「第 11 回水辺・流域再生国際 フォーラム(兼: ECRR-ARRN 技術交流会)」運営協力(同上)
平成 26 年 12 月 -	オランダ水理研究所(Deltares) 等	技術交流
平成 26 年 1 - 2 月	国際河川財団(IRF)	国際河川賞への日本応募支援
平成 26 年 3 月	韓国建設技術研究院(KICT)	技術交流、現地視察支援

2. 会員の入退会数及び現在の会員数

団体会員、個人会員の入退会数及び平成 26 年度末現在の会員数は次表の通りです。

会員区分	平成 25 年度末	入会数	退会数	現在数
団体会員	52	3	0	55
個人会員	644	42	3	683

平成 26 年度 収入・支出決算書
(平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日)

(収入)

項目	予算額	決算額	増減	備考
①助成金	1,000,000	1,000,000	0	河川整備基金助成事業
②寄付金	0	0	0	
③預金利息	30	98	68	
計	1,000,030	1,000,098	68	

(支出)

項目	予算額	決算額	増減	備考
①旅費・交通費	420,000	380,533	△ 39,467	編集委員会出張費
②通信・運搬費	43,000	9,922	△ 33,078	事例集送付
③資料・印刷費	400,000	553,416	153,416	事例集印刷
④賃貸料	10,000	2,008	△ 7,992	会議室使用料
⑤委託費	27,000	100,532	73,532	アルバイト代
⑥諸謝金	100,000	0	△ 100,000	
計	1,000,000	1,046,411	46,411	

※上記は助成金のみを計上。

その他の事業に要する諸費用は、日本河川・流域再生ネットワークの事務局を共同運営する「公益財団法人リバーフロント研究所」及び「株式会社建設技術研究所国土文化研究所」の共同研究「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」より支出している。